

SFC 研究所所長 殿

SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書（2020年度）

ラボ名称	アドバンスド・パブリッシング・ラボ			
ラボ代表者	氏名	村井 純	所属	慶應義塾大学
ラボ設置期間	2017年4月1日 ~ 2024年3月31日		7	年間

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
村井純	教授	代表
中村修	環境情報学部 教授	アドバイザー
加藤文俊	政策・メディア研究科委員長・環境情報学部 教授	研究メンバー
宮垣元	総合政策学部 教授	研究メンバー
和田龍磨	総合政策学部 教授	研究メンバー
佐藤雅明	政策・メディア研究科 特任准教授	研究メンバー
岸上順一	政策・メディア研究科 特任教授	研究メンバー
村田真	政策・メディア研究科 特任教授	研究メンバー
芦村和幸	政策・メディア研究科 特任教授	研究メンバー
吉井順一	SFC研究所所員	研究メンバー
高見真也	SFC研究所所員	研究メンバー
吉澤直美	SFC研究所所員	研究メンバー・事務局

年次活動実績報告

研究活動報告 (設置申請書, 継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

EPUB仕様が策定したIDPFがW3Cと統合し、W3Cにおいて2019年5月にEPUB 3.2が策定されたが、これはCommunity Groupによる策定だったため、W3Cの正式な標準仕様とはなっていない。そこで、W3Cとしての標準仕様(W3C勧告)となるEPUB仕様が策定するため、2020年8月にW3CにおいてEPUB3 Working Groupが発足し、日本を含むアジア圏の要望を取りまとめる目的で、APL EPUB-WGリーダーの高見氏(SFC研究所所員)が共同議長の一人に就任した。

APL EPUB-WGの活動の一つとして開設したメーリングリスト(apl-epub-tech)において、W3C EPUB3-WGにて策定が始まったEPUB 3.3における課題や日本市場の要望を議論し、2021年2月に公開されたEPUB 3.3のFPWD(First Public Working Draft、最初の公開草案)では、過去に日本市場で問題となった論理目次と本文の並びが一致していなければならないというEPUBの仕様の改定を実現することができた。

また、EPUB 3.3において廃止が検討されていたマルチレンディション仕様についても、日本市場で教育系での利用があったことから、APL-MLでの議論や要望をW3Cにおける標準化活動にフィードバックすることで、仕様としてはEPUB 3.3に残存する形で決着した。

このように、日本市場の状況や要望等を議論・共有するAPLでの活動が、EPUB 3の次期バージョンの仕様策定に影響を与えるという役割を担っている。

前期末(2020年3月6日)に「APLパネル: Web時代の日本語組版から考える出版の未来」を開催予定であったが、コロナの影響で延期とした。これに代わるイベントとして、日本語書記技術WG小林龍生リーダー主導で「マガジン航」編集長で「本とコンピュータ」三代目編集長、仲俣暁生氏が企画&司会する「ROUND ABOUT THE BOOK」(以下)を開催した。コロナの影響で、第1回と2回は慶應三田の教室とZoomの併用、第3回以降はZoomのみで開催。参加は慶應の学生と一般(招待制)で毎回20名程度。講師もテーマも良く、講演映像は関係者限定で公開している。

■書物の「本質」ととらえなおす連続セミナー「ROUND ABOUT THE BOOK」

第1回 2020年10月23日(金) 山本貴光氏(文筆家、ゲーム作家)

「書物を「マージン(余白)」から考える」

第2回 2020年11月20日(金) 円城塔氏(小説家)

第3回 2020年12月5日(土) 永田希氏(書評家)

「積読こそが完全な読書術である」

第4回 2021年1月27日(水) 小林えみ氏(編集者、よはく舎代表)

「中小出版の未来と出版のコモン」

第5回 2021年2月26日(金) 齋木小太郎氏(ポプラ社 こどもの学び研究所)

「百科事典の現在」

第6回 2021年3月30日(火) 森暁子氏(ジュンク堂書店池袋店副店長:人文書担当)

LIAのガイドライン翻訳:

イタリアの出版界(財団法人LIA)が推進するアクセシビリティ対策のホワイトペーパーを翻訳した。

プリントディスプレイにも対処できるデジタル時代の日本語レイアウト:

科研費基盤研究(B)「プリントディスプレイにも対処できるデジタル時代の日本語レイアウト」において、分かち書きの読みやすさの実験評価を行った。

EPUB AccessibilityのJIS化:

EPUB AccessibilityがISO/IEC国際規格として成立したのを受けて、JIS原案作成委員会を情報処理学会規格調査会に設立した。出版社からの積極的な参加を期待している。

ルビの標準化:

Florian RivoalとFantasaiにユーザ要求(とくにアクセシビリティに関わるもの)を伝え、WHATWGとW3Cにおける標準化において考慮してもらった。

縦書きのためのフォント仕様制定:

CSS Writing Modesは勧告になったが、縦書き中の文字横転とグリフ取り換えについては課題を残している。実際、国内出版社はイメージ外字を用いることを余儀なくされている。

フォント規格の見直しを主張してきたが、既得権益を盾に取るISO/IEC SC29の抵抗によって進んでいない。

アクセシブルな日本語EPUB出版物のためのメタデータ:

EPUB Accessibilityの国際規格化をまって、日本語固有のルビ・分かち書き・縦横切り替メタデータについてのユーザ要求を整理し、メタデータの案を日本ダイジェーコンソーシアム技術委員会で作成した。

これらは、EPUB書籍にどんなルビが存在するかを表すためのメタデータ、分かち書きに対応しているかを示すためのメタデータ、縦横のどちらに(または両方に)対応しているかを示すためのメタデータである。

メタデータの登録依頼をONIXとSchema.orgの両方に出すために検討をしている。Publishing@W3CにはGitHubのissueを三つ提出した。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

「ウェブ技術によるルビの事例」

https://310f52f6-bfce-4d70-bd86-07371d7f98c5.filesusr.com/ugd/eb8538_30fd4d8f31104d318c0dcdcd009eaf10.pdf

「ルビの簡便な配置ルール(案)」

<https://w3c.github.io/simple-ruby/ruby-rules-ja.pdf>

「すべての人のための電子書籍 - アクセシブルなデジタル出版のエコシステムを目指して -」

<https://east-pa.s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/bibi/index.html?book=LIAJ>

https://310f52f6-bfce-4d70-bd86-07371d7f98c5.filesusr.com/ugd/eb8538_479cc49534ce45ebaa17b391c0279194.pdf

APLホームページ

<https://www.aplab.jp/>